

2015年7月

各位

高等教育研究会
代表 齋藤敏康

公開シンポジウム

国立大学法人の人文社会系の学問・教育はどうなるのか

－国立大学法人第3期中期計画をめぐって－

6月8日、下村博文文部科学大臣は、全国の国立大学法人に対し、第3期中期目標・中期計画（2016～2021年度）の策定にあたって、教員養成系および人文社会科学系の学部・大学院の廃止や転換に取り組むことなどを求める旨の通知（「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」）を発出しました。

通知では、「国立大学法人の組織及び業務全般の見直しに当たっては、憲法で保障されている学問の自由や大学の自治の理念を踏まえ、国立大学の教育研究の特性への配慮や自主的・自律的な運営の確保の必要性等の観点に十分留意する必要がある」としており、人文社会科学系の「廃止」を即座に進めることは求めているものの、国立大学法人の財政権限を有する政府や文科省からこのような通知が出されたことは、各国立大学法人にとって極めて重大な意味合いをもっています。

今回の通知に対して、国立大学法人協会の里見進会長（東北大学長）は、6月中旬に東京都内で開いた記者会見で、「非常に短期の成果を上げる方向に性急になりすぎているか。大学は今すぐ役に立たなくても、将来大きく展開できる人材をつくることも必要」との見解を表明し、文系学部の必要性を訴えました。しかし、一部の大学では文科省の意向に沿う形で文系学部の定員を減らす計画を進める動きが見られるなど、国立大学法人における文系学部の行方は混とんとした状況にあります。

本シンポジウムでは、こうした国立大学法人をめぐる動向を踏まえつつ、関係者からの問題提起にもとづいて、今後の大学のあり方等について議論を深めたいと考えています。

記

◆開催日時：2015年8月1日（土） 13：30 開会 17：00 閉会（13:00～受付）

◆会場：キャンパスプラザ京都 2階・第1会議室

◆報告者

*鈴木 寛氏（東京大学教授・慶應義塾大学教授／文部科学大臣補佐官）

「国立大学法人における教育研究のあり方ー第3期中期計画をめぐって」

*小路田 泰直氏（奈良女子大学副学長、文学部教授）

「奈良女子大学における人文社会系教育研究と中期計画」

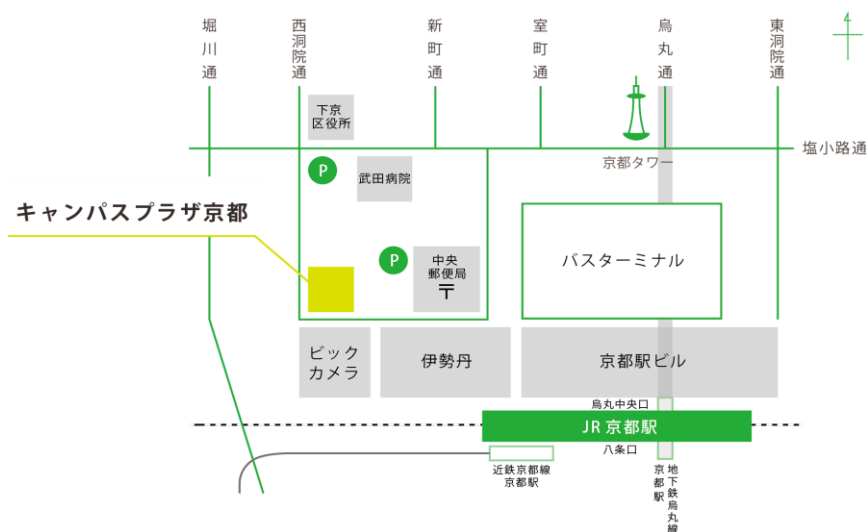
*松本 長彦氏（愛媛大学前理事・副学長、法文学部教授）

「愛媛大学における人文社会系学部の改革をめぐって」

◆タイムテーブル

13：30～13：35	主催者あいさつ
13：35～14：40	鈴木寛氏からのご報告
14：40～15：15	鈴木氏の報告を踏まえた全体討論 (休憩)
15：30～16：00	小路田泰直氏からのご報告
16：00～16：30	松本長彦氏からのご報告
16：30～17：00	全体討論

<会場地図>



〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル東塩小路町 939
京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線、JR 各線「京都駅」下車。
烏丸中央口から徒歩5分。